# 農作業 テクニカル ダイアリー

## トウモロコシ

やさいの里営農センター　営農指導担当者　三枝 魁斗

### トウモロコシの病害虫対策

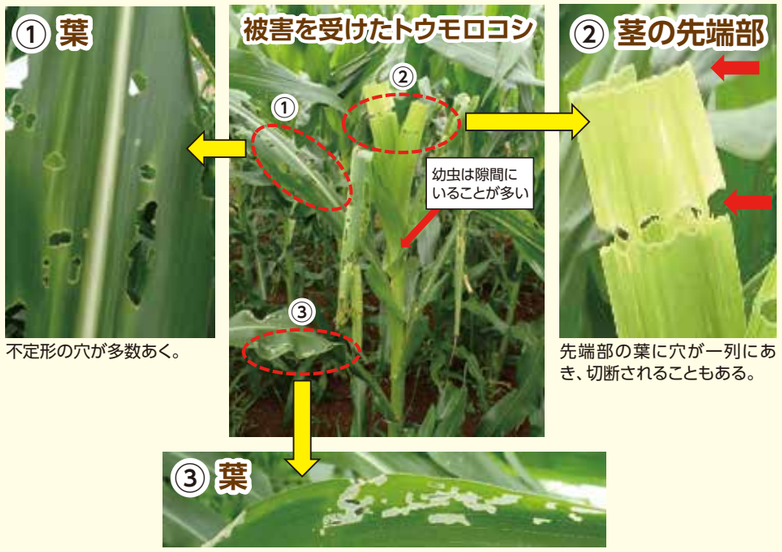
**●ツマジロクサヨトウについて**

ツマジロクサヨトウ（写真❶❷）は南北アメリカ原産の虫で、アフリカ等ではトウモロコシに甚大な被害が出ています。日本国内では、2019年7月に鹿児島県で初めて確認されました。千葉県においても同年8月下旬に、飼料用トウモロコシで初めて確認されています。

極めて広食性な害虫で、特に柔らかい葉や茎、果実を食い荒らします（写真❸）。トウモロコシに限らず80種類以上の農産物に被害を与えるため、当JA管内では発見されていませんが、注意が必要です。

多発すると被害が拡大する恐れがあるので、圃場で発見した場合は、山武農業事務所またはJAへご連絡ください。その後、表❶を参考に農薬による防除を行いましょう。新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布してください。

**写真❸**　食害の状況　※写真は飼料用トウモロコシですが、被害は未成熟トウモロコシと同様です。




不定形の穴が多数あく。

先端部の葉に穴が一列にあき、切断されることもある。

表面が若齢幼虫により食害され、片側の表皮が白く残る。

◎写真❶～❸は農林水産省Webサイト掲載「ツマジロクサヨトウ」防除マニュアル本編（第2版）より引用

**写真❶**
ツマジロクサヨトウの終齢幼虫

**写真❷**
ツマジロクサヨトウの成虫（雄）

**表❶　未成熟トウモロコシのツマジロクサヨトウに適用のある殺虫剤一覧**　（2022年1月現在）

| 系統名 | 農薬名 | 希釈倍率 | 使用回数 | 使用時期 |
|---|---|---|---|---|
| ネライストキシン系 | パダンSG水溶剤 | 1000～1500倍 | 2回以内 | 収穫21日前まで |
| 有機リン系 | スミチオン乳剤 | 1000倍 | 4回以内 | 収穫7日前まで |
| IGR系 | カスケード乳剤 | 2000倍 | 2回以内 | 収穫7日前まで |
| マクロライド系 | アファーム乳剤 | 1000 ～ 2000倍 | 2回以内 | 収穫3日前まで |
| ジアミド系 | フェニックス顆粒水和剤 | 2000 ～ 4000倍 | 2回以内 | 収穫前日まで |
| | プレバソンフロアブル5 | 2000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで |
| | ベネビアOD | 4000倍 | 3回以内 | 収穫前日まで |

※農薬使用時には、必ずラベルの内容を確認しましょう。



## 夏ネギ

成東経済センター　営農指導員　鵜沢 悠人

### 令和3年産を振り返って

近年、夏ネギは安定した単価で推移しているため、作付面積がトンネル栽培・露地栽培を中心に増加傾向にあります。

令和3年産は、面積増加に伴う出荷遅れや、7～8月の気温上昇による軟腐病等の病気により品質低下を起こし、安定した単価で販売することができませんでしたので、計画的な出荷を心掛けましょう。

### 軟腐病について

軟腐病は5～10月ごろに発生が多く見られます。被害が進行すると出荷調製の作業時だけでなく、圃場でも軟腐病特有のにおいを放ちます。病原菌は、土寄せや強風等の影響によりできた傷口から入り、発病すると葉身が軟化・腐敗し、最終的には枯死します。発病株を確認した際は、周りの株にも感染する恐れがあるため、速やかに取り除きましょう。また、窒素肥料を多用すると生育が悪くなり発病リスクが高まるため、注意してください。軟腐病は、ほかの病気に比べて登録農薬が少ないため、計画的な農薬散布を行いましょう（表❷参照）。

**表❷　ネギの軟腐病に登録のある農薬一覧**

| 薬剤名 | 使用基準（10a当たり） | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 作用特性 |
|---|---|---|---|---|---|
| オリゼメート粒剤 | 6kg | 土寄せ時に株元散布 | 収穫30日前まで | 2回 | 予防 |
| Zボルドー | 500倍 | 散布 | ― | ― | 予防 |
| スターナ水和剤 | 2000倍 | 散布 | 収穫7日前まで | 3回以内 | 予防・治療 |
| バリダシン液剤5※ | 500倍 | 散布 | 収穫前日まで | 2回以内 | 予防・治療 |

※バリダシン液剤は「収穫21日前まで→収穫前日まで」「使用回数1回→2回以内」に変更になりました。

**表❸　ネギのさび病に登録のある農薬一覧**

| 薬剤名 | 使用基準（10a当たり） | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 作用特性 |
|---|---|---|---|---|---|
| カナメフロアブル | 4000倍 | 散布 | 収穫前日まで | 4回以内 | 予防・治療 |
| オンリーワンフロアブル | 1000倍 | 散布 | 収穫14日前まで | 3回以内 | 予防・治療 |
| パレード20フロアブル | 2000倍 | 散布 | 収穫前日まで | 3回以内 | 予防 |
| アミスター20フロアブル | 2000倍 | 散布 | 収穫3日前まで | 4回以内 | 予防・治療 |

### さび病について

さび病（写真❹）は夏ネギ出荷時期では5～7月の発生が目立ちます。発病すると葉の部分に橙色の斑点を生じ、徐々に広がっていきます。被害が拡大すると葉が枯死し、収量に影響を及ぼします。

気温が15～20℃で多湿条件だと発病しやすくなります。病斑の色が特徴的なため比較的発見しやすい病害なので、早期の農薬防除を行ってください（表❸参照）。

**1月の分析経過について**

| | | |
|---|---|---|
| 残留農薬分析点数 | 多成分一斉分析 | 合計1点 |
| | | 葉タマネギ …… 1点 |

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 … 合計26点

### 今後のトンネル栽培の管理

被覆除去は2条トンネルで3月下旬、1条トンネルでは4月上旬に行いましょう。被覆中は高温障害による生育遅延に注意し、トンネル内の温度が35℃を超えないように換気してください。

被覆除去後は軟弱なため、すぐに土寄せを行いましょう。2回目は14日後を目安に、その後は生育状況を確認しながら7～10日ごとに、合計3～4回行ってください。夏ネギは圃場での品質低下を起こしやすいため、L、Mを中心に出荷を開始してください。

**写真❹**　ネギのさび病